

横須賀市の入札制度・運用に関する意見書
(第7期)

平成28年(2016年)5月24日

横須賀市入札監視委員会

はじめに

横須賀市は、平成 14 年に入札監視委員会（以下「当委員会」という。）を設置して以来、14 年間（7 期）にわたり、入札事案の審議等を行ってきた。

この間、社会環境が大きく変化し、横須賀市の入札制度もその変化に対応すべく様々な見直しが行われた。

近年の大きな課題の一つとしては、横須賀市に限らず、全国的に入札不調が挙げられる。入札不調は、工事でいえば目的物が完成できず、それは最終的には市民生活にも影響がおよぶこととなる。

円滑な入札事務が公共の福祉の増進につながるともいえるから、横須賀市では、平成 26 年度から入札不調の対策の一環としていくつかの方策を掲げ、取り組んできた。

本委員会では、そのことも踏まえながら、設置目的である横須賀市における入札制度、契約方法等とその運用が、公正性・透明性・競争性と品質が確保されるかどうかを審議してきた。

今回、その結果をとりまとめ、報告するものである。

第1	入札及び契約の状況	3
1	一般競争入札の実施状況	3
(1)	平成26年度以降の工事入札について	3
①	落札率の推移	3
②	入札参加者の推移	6
③	1者入札・2者入札の推移	7
④	入札不調の推移	8
(2)	固定額型最低制限価格方式について	11
(3)	くじ引きによる落札者の決定について	12
(4)	工事成績条件付き入札の推移について	14
2	随意契約の実施状況	16
第2	平成26年度以降における制度等変更の主な取組み	17
1	固定額型最低制限価格の算定係数の見直し	17
2	市内事業者の手持ち工事の上限件数の見直し	17
3	技術者配置の見直し	17
(1)	現場代理人の重複配置条件	17
(2)	主任技術者の重複配置条件（専任技術者となる工事）	18
第3	審議結果	19
1	審議案件の総評	19
2	一般競争入札	19
(1)	1者入札・2者入札について	19
(2)	入札不調について	20
(3)	固定額型最低制限価格方式について	20
(4)	くじ引きによる落札者の決定について	20
(5)	工事成績条件付き入札について	21
3	随意契約	21
4	その他	22
(1)	災害緊急協力事業者に対する優遇措置について	22
(2)	不正のない入札及び契約事務の実施について	22

(注1) 本書における各年度の数値は、年度末の集計である。

ただし、平成27年度の数値は、平成27年度12月31日までの集計である。

(注2) 数値に特に記載がない場合は、消費税及び地方消費税込みの数値である。

第 1 入札及び契約の状況

1 一般競争入札の実施状況

(1) 平成 26 年度以降の工事入札について

本市では、平成 21 年 5 月から予定価格の事後公表の試行を開始し、平成 22 年 4 月には市内事業者限定の入札において一部の業種で固定額型最低制限価格方式の導入を行い、平成 23 年 11 月にはすべての業種で固定額型最低制限価格方式を導入した。

① 落札率の推移

平成 26 年度の平均落札率は 89.17%であり、平成 27 年 12 月末の平均落札率は 88.09%となっている。近年の平均落札率は、平成 22 年度の固定額型最低制限価格方式の導入により、平成 23 年度以降上昇傾向となっている。また、入札への平均参加者数は平成 24 年度以降減少傾向であったが平成 26 年度は 6.7 者に微増し、平成 27 年 12 月末には 7.4 者となり増加となっている。【表 1】。

【表1】落札率の推移

業種名	平成22年度				平成23年度				平成24年度			
	件数	請負金額	平均落札率	平均参加者数	件数	請負金額	平均落札率	平均参加者数	件数	請負金額	落札率	平均参加者数
土木一式工事	94	2,431,968,315	81.43%	8.2者	107	2,925,717,060	81.24%	14.0者	140	3,856,126,890	82.74%	7.9者
建築一式工事	54	2,020,943,778	81.07%	7.9者	55	1,155,290,776	88.06%	6.4者	58	1,009,123,500	88.54%	7.1者
大工工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
左官工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
とび・土工・コンクリート工事	3	13,496,595	88.22%	6.7者	1	1,984,500	84.30%	4.0者	7	248,431,050	88.40%	8.1者
石工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
屋根工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
電気工事	58	793,567,950	71.45%	13.6者	62	1,434,541,290	83.65%	11.3者	66	1,898,771,280	85.00%	8.3者
管工事	34	681,915,045	76.11%	7.3者	31	752,601,885	86.10%	7.3者	30	586,347,284	84.98%	6.1者
タイル・れんが・ブロック工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
鋼構造物工事	1	2,520,000	88.56%	2.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
鉄筋工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
仮設工事	22	376,753,545	82.66%	20.3者	22	281,450,820	82.56%	23.7者	30	376,561,290	82.23%	19.1者
しゅんせつ工事	0	0	0.00%	0.0者	1	31,395,000	75.89%	1.0者	1	19,110,000	89.57%	5.0者
板金工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
ガラス工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
塗装工事	10	204,918,000	76.64%	13.5者	15	219,837,796	85.15%	11.9者	13	172,638,795	86.17%	10.8者
防水工事	15	202,184,850	82.24%	17.3者	6	47,295,150	89.28%	11.7者	4	67,717,125	84.99%	8.5者
内装仕上工事	3	10,066,350	79.74%	7.3者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
機械器具設置工事	11	270,749,850	72.29%	4.7者	7	349,041,000	69.70%	3.0者	10	458,473,050	66.96%	3.0者
熱絶縁工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
電気通信工事	2	38,892,000	68.34%	3.0者	2	702,597,000	63.63%	5.0者	3	25,620,000	92.77%	2.0者
造園工事	15	112,051,590	86.41%	8.1者	15	80,875,410	82.77%	9.5者	15	147,641,130	82.29%	7.1者
さく井工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
建具工事	7	29,721,300	76.13%	5.7者	2	11,917,500	92.14%	4.5者	2	19,740,000	85.64%	4.5者
水道施設工事	50	1,822,784,250	84.78%	9.0者	47	1,283,582,685	84.84%	8.8者	46	1,380,435,945	87.95%	5.4者
消防施設工事	6	33,456,150	78.61%	5.2者	1	8,925,000	90.59%	2.0者	1	75,579,000	98.91%	2.0者
清掃施設工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
計	385	9,045,989,568	79.59%	9.9者	374	9,287,052,872	83.69%	11.1者	426	10,342,316,339	84.53%	8.1者

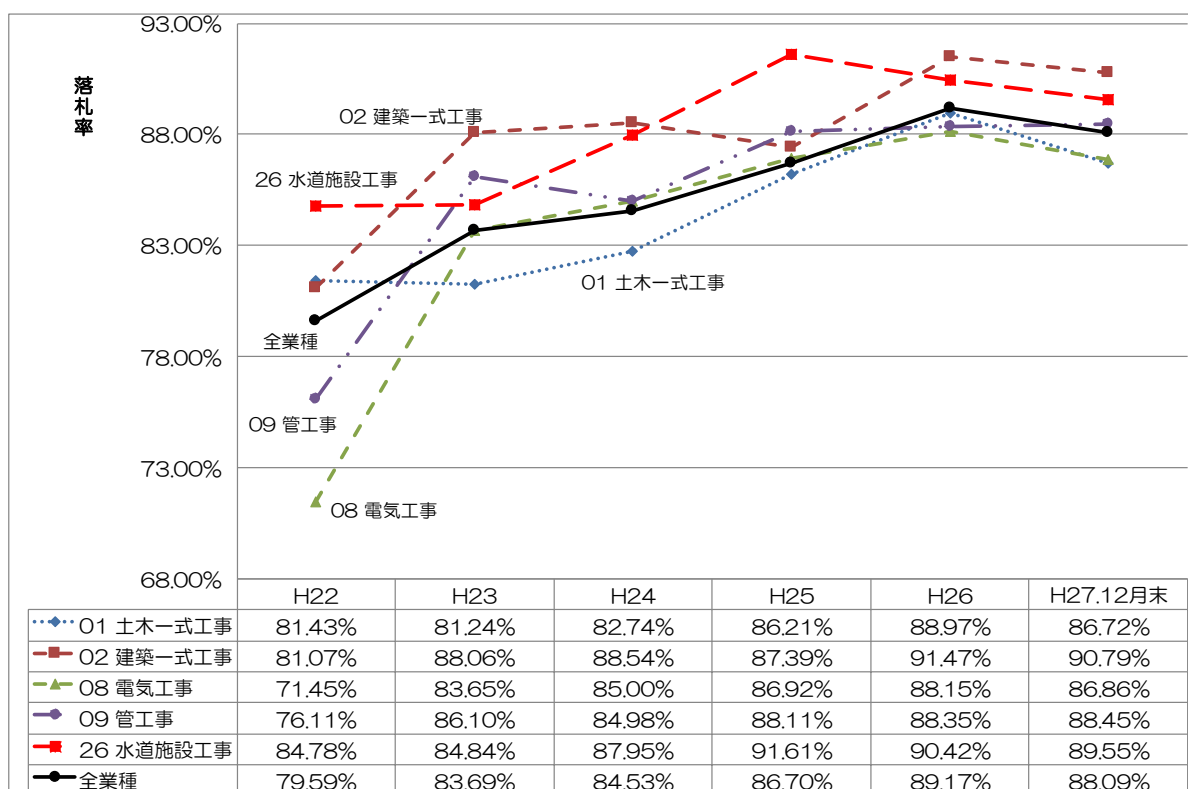
業種名	平成25年度				平成26年度				平成27年 12月末			
	件数	請負金額	平均落札率	平均参加者数	件数	請負金額	平均落札率	平均参加者数	件数	請負金額	平均落札率	平均参加者数
土木一式工事	139	3,217,202,310	86.21%	6.1者	119	4,526,980,380	88.97%	6.9者	104	2,217,011,796	86.72%	9.7者
建築一式工事	52	1,260,578,250	87.39%	6.9者	40	1,698,058,080	91.47%	5.1者	39	932,455,119	90.79%	3.6者
大工工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
左官工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
とび・土工・コンクリート工事	3	32,453,400	93.02%	4.3者	5	36,078,696	94.33%	3.8者	6	168,804,000	89.47%	9.2者
石工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
屋根工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
電気工事	45	1,510,919,056	86.92%	8.0者	53	1,907,760,621	88.15%	7.4者	37	1,699,679,484	86.86%	6.7者
管工事	34	508,770,402	88.11%	3.2者	25	550,155,284	88.35%	3.9者	18	275,929,459	88.45%	3.9者
タイル・れんが・ブロック工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
鋼構造物工事	1	2,552,025	82.39%	5.0者	1	18,648,468	87.16%	6.0者	0	0	0.00%	0.0者
鉄筋工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
仮設工事	46	661,476,585	85.82%	12.6者	27	532,560,744	87.47%	14.9者	27	410,689,224	86.23%	15.9者
しゅんせつ工事	1	67,200,000	99.15%	1.0者	0	0	0.00%	0.0者	1	10,260,000	94.72%	1.0者
板金工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
ガラス工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
塗装工事	14	177,820,189	88.04%	7.1者	22	370,705,680	89.81%	6.4者	11	254,863,260	91.45%	3.5者
防水工事	3	27,216,000	89.18%	12.7者	8	144,296,640	90.46%	10.6者	3	48,070,800	89.32%	7.3者
内装仕上工事	0	0	0.00%	0.0者	2	7,854,840	93.25%	3.0者	0	0	0.00%	0.0者
機械器具設置工事	14	808,170,300	71.67%	1.4者	12	900,190,800	85.38%	1.4者	15	912,624,840	88.37%	2.0者
熱絶縁工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
電気通信工事	5	153,482,700	85.27%	1.6者	2	59,724,000	77.16%	3.0者	2	100,241,280	86.01%	4.0者
造園工事	18	124,541,550	85.66%	4.4者	21	210,736,188	88.44%	5.7者	17	205,077,852	88.99%	6.2者
さく井工事	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者	0	0	0.00%	0.0者
建具工事	4	32,235,000	85.55%	5.5者	6	35,007,660	93.45%	3.8者	5	43,741,080	90.76%	3.8者
水道施設工事	44	1,511,979,000	91.61%	3.3者	45	1,805,621,220	90.42%	5.9者	33	1,253,512,584	89.55%	5.8者
消防施設工事	3	10,466,400	82.32%	3.7者	1	6,307,200	90.40%	4.0者	1	2,508,624	83.25%	3.0者
清掃施設工事	0	0	0.00%	0.0者	1	21,168,000,000	86.34%	2.0者	0	0	0.00%	0.0者
計	426	10,107,063,167	86.70%	6.3者	390	33,978,686,501	89.17%	6.7者	319	8,535,469,402	88.09%	7.4者

(注) 入札不調は含まない。

発注件数の多い主要5業種（土木一式工事・建築一式工事・電気工事・管工事・水道施設工事）をみると、平成26年度の各業種の平均落札率は最高値が建築一式工事の91.47%、最低値は電気工事で88.15%であり、その差は3.32ポイントの範囲に収れんしている。また、平成27年度12月末の平均落札率においては、最高値が建築一式工事の90.79%、最低値は土木一式工事の86.72%であり、その差は4.07ポイントの範囲に収れんされている【図1】。

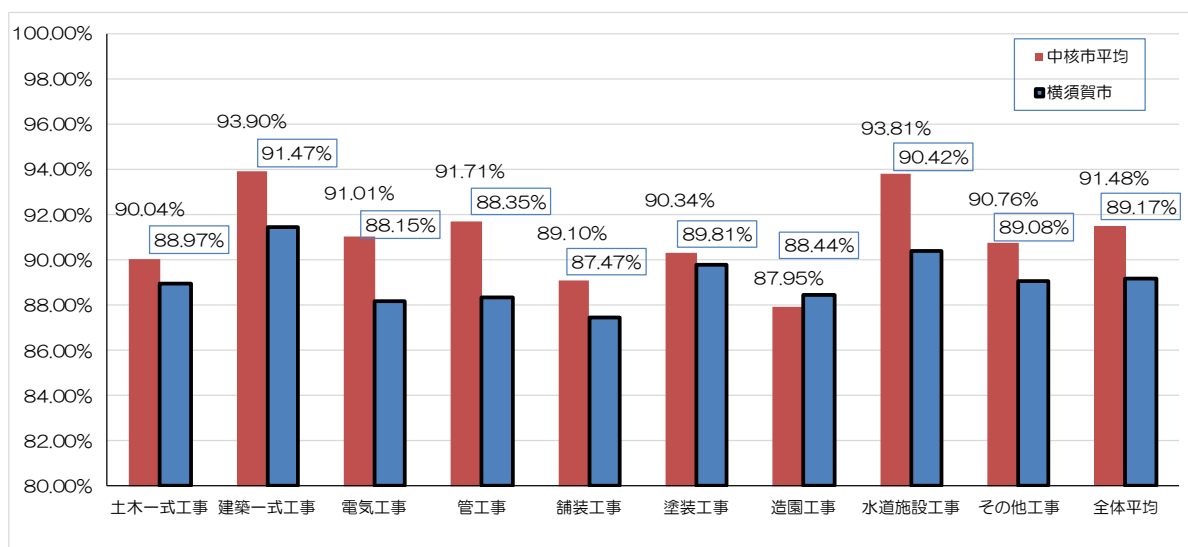
しかし、固定額型最低制限価格方式は発注者が下限値を規定していることから、「目立って低い落札率の業種がなくなった」ということであり、一定の水準に収れんすることは当然ともいえる。

【図1】業種別平均落札率の推移



平成 26 年度の一般競争入札（工事）における業種別落札率は【図 2】のとおりである。調査した業種において、本市の落札率と中核市の平均落札率の状況は、ほぼ同様の傾向となっている。本市の落札率は、造園工事を除いた 8 業種において中核市の平均落札率を下回っている。

【図 2】平成 26 年度 業種別落札率の中核市比較



(注 1) 平成 28 年 2 月横須賀市が実施した中核市調査結果を加工した。

(注 2) 平成 26 年度の工種別単純落札率。

(注 3) 中核市平均は業種ごとに、業種ごとの落札率を把握していない場合及び該当業種の入札件数が 0 件であった中核市を除いて算定した落札率の単純平均。

- ・土木一式工事、建築一式工事、電気工事及び管工事は、45 市中 43 市の単純平均
- ・舗装工事は、45 市中 39 市の単純平均
- ・塗装工事は、45 市中 32 市の単純平均
- ・造園工事は、45 市中 35 市の単純平均
- ・水道施設工事は、45 市中 15 市の単純平均

(水道施設工事については、水道局で発注している等により落札率を把握していないケースが多い。)

- ・その他工事は、45 市中 38 市の単純平均
- ・全体平均は、45 市中 43 市の単純平均

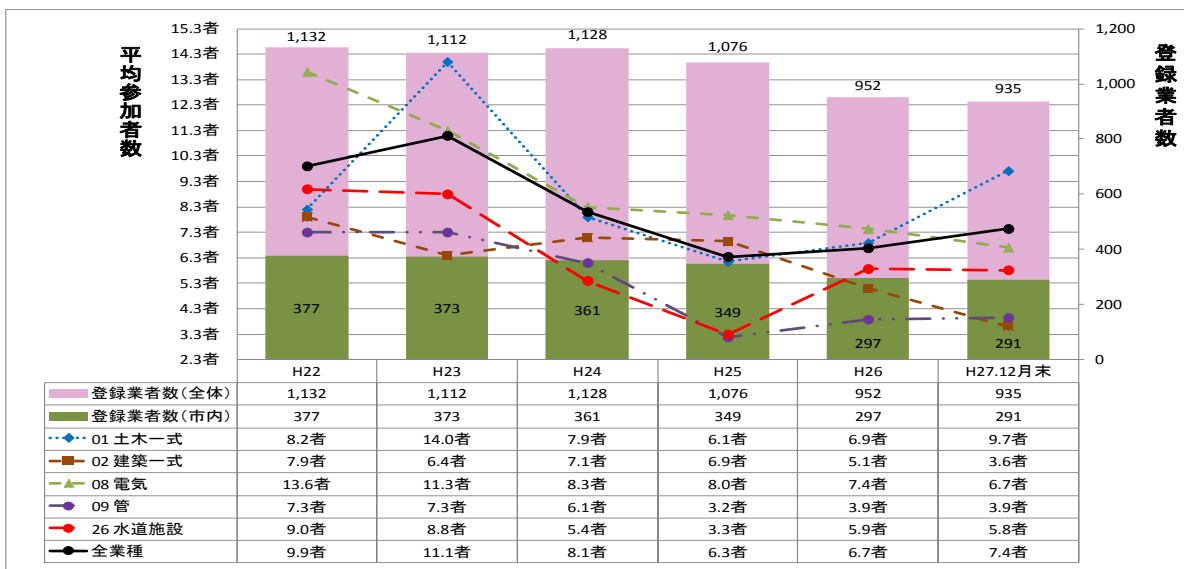
② 入札参加者数の推移

入札参加者数は、固定額型最低制限価格方式への移行が完了した平成 23 年度において、とりわけ土木一式工事の増加が顕著であり、全業種の入札平均参加者数も増加した。入札平均参加者数は、過去 5 年間においては平成 23 年度をピークに減少傾向となっていたが、平成 26 年度は、前年度に比べて 0.4 ポイント増加し、平成 27 年度（12 月末時点）では 0.7 ポイント増加している。

入札参加者の減少原因は明らかではないが、入札参加登録業者数は平成 22 年度以降減少傾向であり、平成 26 年度には 1,000 者を下回った。

また、市内入札参加登録業者は平成 22 年度以降 300 者台で推移をしていたが、平成 26 年度には、300 者を下回った。

【図3】工事入札の年度別平均参加者数と登録業者数の推移



③ 1者入札・2者入札の推移

近年の「1者入札・2者入札」の状況は、【表2】のとおりである。平成26年度は2者入札の件数がほぼ半減した。また、平成27年度も、平成26年度に比べて減少している。

なお、平成26年度においては件数が半減したにもかかわらず、請負額が約214億円増加したのは、大型工事である「横須賀ごみ処理施設建設工事」がJV（特定建設工事共同企業体）2者による入札であったことによるものである。

落札率は、全件平均よりも2者入札、2者入札よりも1者入札の順で高くなる傾向がある。

【表2】1者入札・2者入札の工事入札状況

年度	1者入札			2者入札			全件		
	件数(件)	請負額(円)	平均落札率	件数(件)	請負額(円)	平均落札率	件数(件)	請負額(円)	平均落札率
H22	14	175,268,100	93.38%	22	437,376,765	81.98%	385	9,045,989,568	79.60%
H23	12	739,126,500	88.46%	17	169,336,230	82.42%	374	9,287,052,872	83.68%
H24	29	1,016,432,655	90.26%	39	1,569,142,890	87.77%	425	10,351,439,789	84.66%
H25	49	2,492,046,649	89.69%	72	1,464,779,505	89.50%	426	10,107,063,167	86.70%
H26	45	3,784,859,568	92.82%	42	22,905,893,708	91.91%	390	33,978,686,501	89.17%
H27 12月末	33	1,965,501,720	93.97%	24	617,106,168	88.82%	319	8,535,469,402	88.09%

(注) 入札不調及び契約締結に至らなかった入札結果は含まない。

④ 入札不調の推移

入札が成立しない入札不調は、一般的にその類型を大別すると、「入札参加者なし（以下「参加者なし」という。）」「入札者全員が予定価格を超えた入札（以下「予算超過」という。）」「入札者全員が最低制限価格未満の入札（以下「最低制限価格割れ」という。）」「その他（予算超過かつ最低制限価格割れ、技術者要件を満たさないなど）」の4類型になる。

不調案件全体に占める類型ごとの割合の推移をみると、「参加者なし」は、平成23年度以降増加していたが、平成26年度には、半数以下に減少した。「予算超過」及び「最低制限価格割れ」も平成25年度に比べ、平成26年度及び平成27年度はともに減少した。しかし、「その他（予算超過かつ最低制限価格割れ、技術者要件を満たさないなど）」は、平成26年度以降、平成25年度に比べ年々増加している。

入札不調の発生割合は、全体として1者・2者入札と同様、平成23年度以降増加していたが、平成26年度は全体として5ポイント減少した。

【表3】不調割合の推移

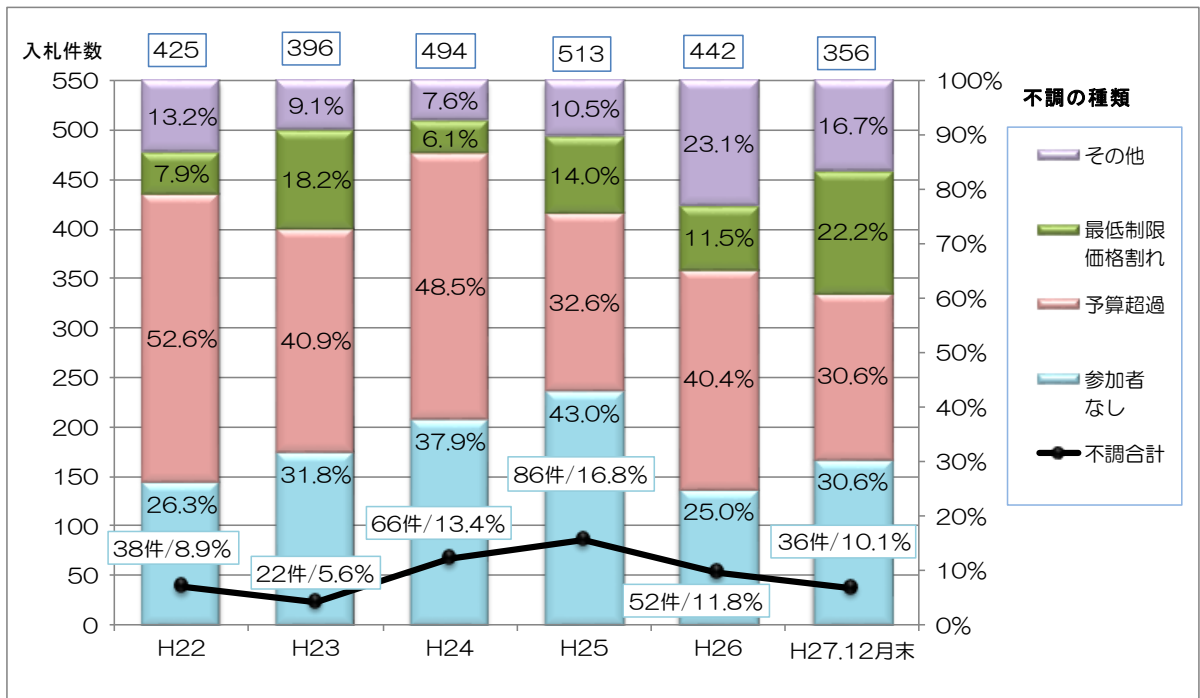
年度	不調の種類				不調件数合計 (件)	不調割合	入札件数(※2) (件)
	参加者なし	予算超過	最低制限 価格割れ	その他 (※1)			
H22	10	20	3	5	38	8.9%	425
H23	7	9	4	2	22	5.6%	396
H24	25	32	4	5	66	13.4%	494
H25	37	28	12	9	86	16.8%	513
H26	13	21	6	12	52	11.8%	442
H26.12月末	12	19	5	11	47	12.0%	393
H27.12月末	11	11	8	6	36	10.1%	356

(注1)「その他」は、予算超過かつ最低制限価格割れ、技術者要件を満たさないなどの理由による。

(注2)入札不調を含む。設計違算等による入札中止は含まない。

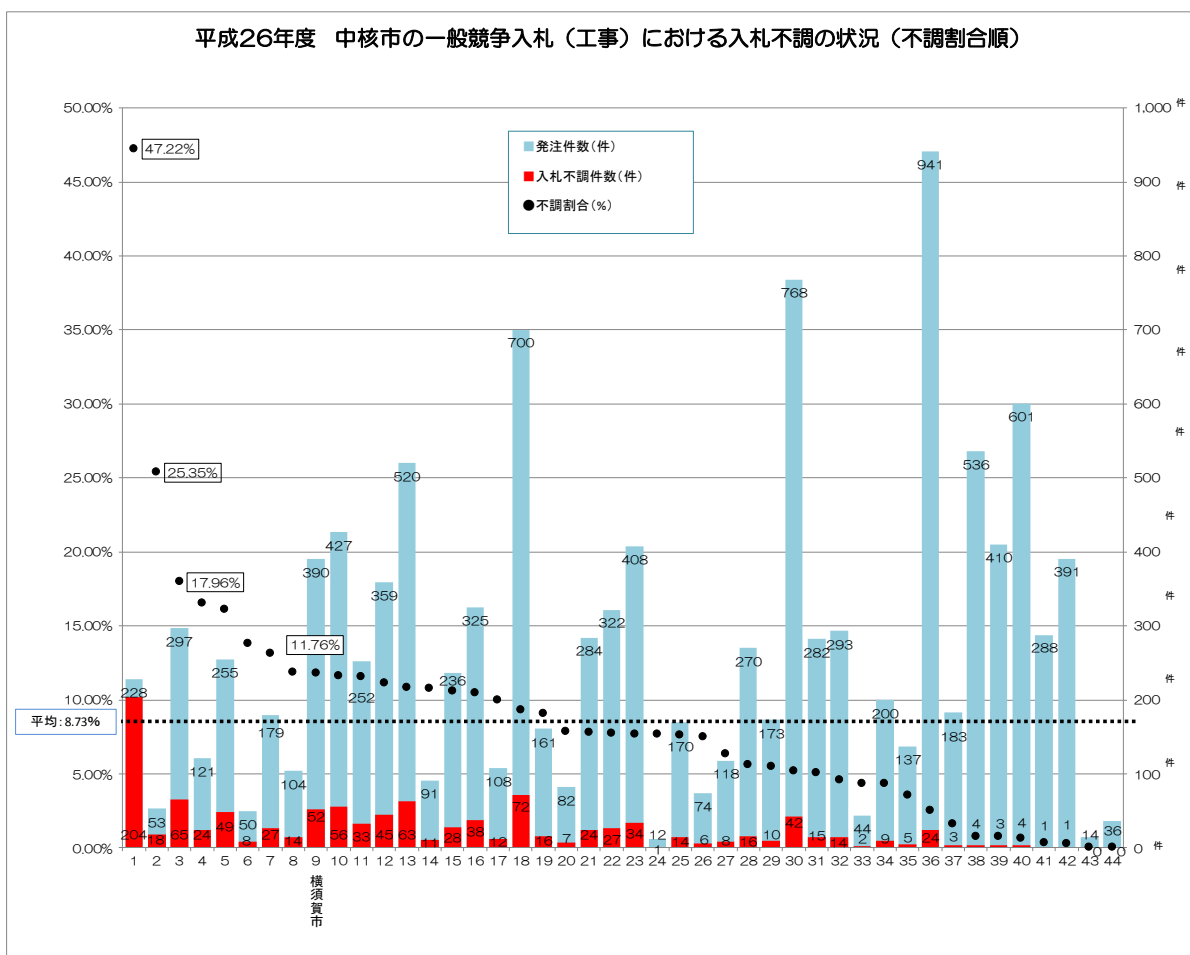
(注3)各年度3月31日現在の数値。

【図4】不調発生率の推移



中核市の不調状況は、【図5】のとおりである。平成26年度の入札不調を中核市の状況と比較すると、不調発生率は、本市が11.8%で、中核市の平均は8.73%で、本市が3.07ポイント上回っていた。

【図5】平成26年度 不調割合の中核市比較



(注1) 平成28年2月横須賀市が実施した中核市調査結果を加工した。

(注2) 平成26年度の工種別単純落札率。

(注3) 中核市平均は、不調件数を把握していない中核市（1市）を除いた44市の不調割合の単純平均。

(注4) 発注件数及び入札不調件数において、水道局で発注している等の理由により水道事業について把握していない中核市が含まれている。

(2) 固定額型最低制限価格方式について

固定額型最低制限価格方式の対象となった市内事業者限定の入札における入札結果の推移は、【表4】のとおりである。

横須賀市では、市内事業者の低額落札を防止し、市内経済の活性化を図ることを目的に平成22年4月から固定額型最低制限価格方式を導入した。

また、平成25年度は業種間補正を行っていたが、平成26年度からは業種間補正を廃止し、国の低入札価格基準に準拠するようにした。この結果、平成22年度から平成24年度までの平均落札率は85%台で推移していたが、平成25年度は87%台、平成26年度は89%台へと上昇している。平成27年12月末までの落札率は、88.30%であり、平成26年度に比べ1.26ポイント減少している。

入札への平均参加者数は、平成26年度は7.3者、平成27年12月末では8.3者で、平成25年度以降増加している。

【表4】固定額型最低制限価格方式（市内事業者限定）の入札状況

年度	件数	請負額	平均落札率	平均参加者数
H22	127件	2,408,255,640円	85.46%	9.3者
H23	313件	5,865,466,497円	85.13%	12.0者
H24	367件	6,601,600,950円	85.79%	8.6者
H25	373件	6,849,800,941円	87.45%	6.9者
H26	344件	7,926,476,313円	89.56%	7.3者
H27.12月末	273件	5,517,819,759円	88.30%	8.3者

(注) 入札不調及び契約締結に至らなかった入札結果は含まない。

(3) くじ引きによる落札者の決定について

固定額型最低制限価格方式^{*}の導入により、最低制限価格での入札者が複数存在し、この結果くじ引きによって落札者を決定する事例が多く見られている。

【表5】は、固定額型最低制限価格方式の一般競争入札のくじの件数の推移である。平成23年度から市内経済の活性化を目的とした市内事業者優先施策により固定額型最低制限価格方式による入札件数が増加しているが、同時にくじによる落札決定が30%を超えている。また、平成26年度は入札件数が減少しているものの、くじ引きによる決定件数は増加し、約40%近くとなっている。

※ 固定額型最低制限価格方式は、横須賀市における最低制限価格決定方式。

【表5】固定額型最低制限価格方式の一般競争入札のくじの件数等の推移

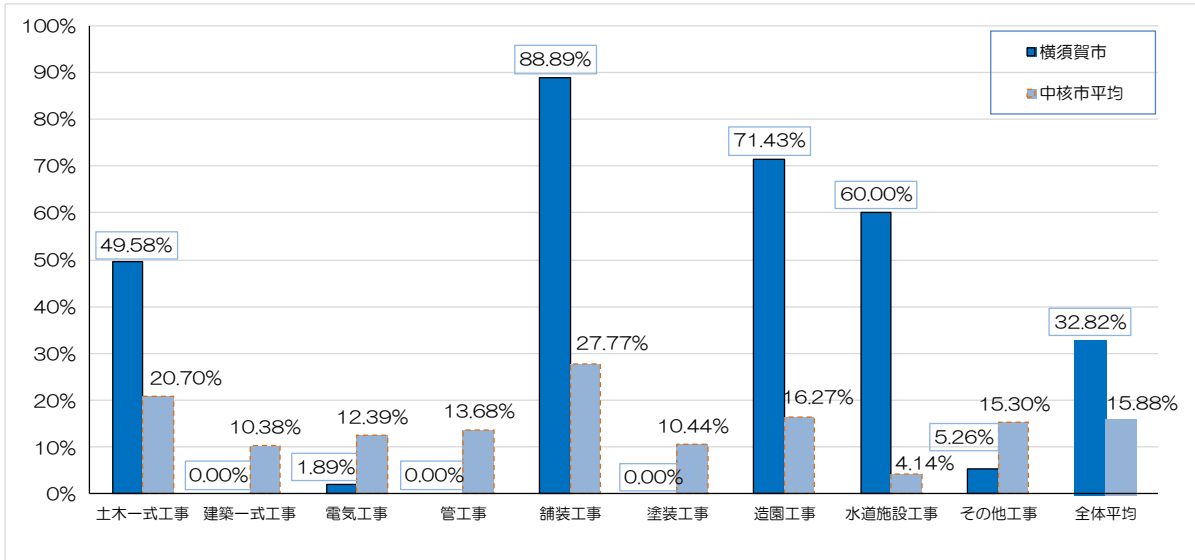
年度	入札件数		入札件数のうちくじによる決定件数		入札件数のうちくじによる決定割合	
	総件数(件)	固定額型方式件数(件)	総件数(件)	固定額型方式件数(件)	総件数	固定額型方式
H22	385	(127)	38	(26)	9.87%	(20.47%)
H23	374	(313)	104	(102)	27.81%	(32.59%)
H24	425	(367)	119	(119)	28.00%	(32.43%)
H25	426	(373)	119	(116)	27.93%	(31.10%)
H26	390	(344)	128	(128)	32.82%	(37.21%)
H27.12月末	319	(273)	129	(129)	40.44%	(47.25%)

平成26年度のくじ引きによる決定率を業種別にみると、調査した業種において、本市と中核市のくじ引きによる決定率の状況は同じような傾向がみられる。

本市では、平成26年度のくじ発生率が、舗装工事が約89%、造園工事が約71%、水道施設工事が60%、土木一式工事が約50%となっている。土木系工事（土木一式工事、舗装工事、造園工事及び水道施設工事）においては、その積算基準や積算採用単価が公表されており、最低制限価格でのくじ引きによる決定率が高くなっている。これに対し建築系工事（建築一式工事、管工事、及び塗装工事）における平成26年度のくじ発生率は0.7%となっている。工種が多く積算が複雑になることから、土木系工事に比べて、くじ引きによる決定率は低いことが顕著である。

中核市のくじ引きによる決定率の単純平均と比較すると、本市は、土木系工事においてすべて上回っており、一方、建築系工事においては、すべて下回っている【図6】。

【図6】平成26年度 業種別くじ発生率の中核市比較



(注1) 平成28年2月横須賀市が実施した中核市調査結果を加工した。

(注2) 平成26年度の職種別単純落札率。

(注3) 中核市平均は、落札率を把握していない場合及び入札件数が0件であった中核市を除き算定した落札率の単純平均。

- ・土木一式工事、建築一式工事、電気工事及び管工事は、45市中43市の単純平均
- ・舗装工事は、45市中39市の単純平均
- ・塗装工事は、45市中33市の単純平均
- ・造園工事は、45市中35市の単純平均
- ・水道施設工事は、45市中16市の単純平均

(水道施設工事については、水道局で発注している等により落札率を把握していないケースが多い。)

- ・その他工事は、45市中38市の単純平均
- ・全体平均は、45市中43市の単純平均

(4) 工事成績条件付き入札について

横須賀市では平成16年度以降、工事品質確保策として工事成績条件付き入札を導入している。これは、入札参加者を一定の工事成績点を有している市内事業者に限定するもので、過去に市が発注した工事の評定、つまり工事成績点が高ければ高いほど、将来の入札参加機会が増えるというインセンティブを設けるものである。

工事成績条件付入札における当該工事の平均評価点は、おおむね83点を超過しており、どの成績区分でも優良な成績を収めていることから、工事成績条件付入札の導入は、工事の品質確保という目的を達成していると考えられる。

【表6】工事成績条件付き入札の実施状況の推移

発注年度	成績区分		入札件数	平均参加者数	当該工事の平均評価点
H23	なし	実績なし	63	13.3者	85.72
	標準な成績	75点以上	82	12.8者	84.06
	良好な成績	80点以上	85	11.9者	85.49
	優良な成績	83点以上	88	10.5者	86.99
H24	なし	実績なし	107	9.7者	84.34
	標準な成績	75点以上	82	8.8者	85.05
	良好な成績	80点以上	85	8.9者	85.02
	優良な成績	83点以上	85	7.4者	86.01
H25	なし	実績なし	87	7.1者	84.91
	標準な成績	76点以上	73	6.9者	85.16
	良好な成績	81点以上	69	7.9者	85.58
	優良な成績	83点以上	127	6.0者	84.84
	超優良な成績	86点以上	9	8.6者	91.00
H26	なし	実績なし	104	8.0者	84.70
	標準な成績	76点以上	59	8.1者	85.08
	良好な成績	81点以上	60	6.4者	85.31
	優良な成績	83点以上	109	6.3者	85.81
	超優良な成績	86点以上	9	11.2者	90.25
H27 (12月末)	なし	実績なし	83	9.8者	86.09
	標準な成績	76点以上	36	6.9者	83.95
	良好な成績	81点以上	36	7.3者	82.81
	優良な成績	83点以上	104	7.5者	85.96
	超優良な成績	86点以上	11	11.8者	—

(注1) 平成27年度は、平成27年12月17日現在を示す。

(注2) 市内限定発注の土木一式工事、建築一式工事、電気工事、管工事、ほ装工事、塗装工事、造園工事、水道施設工事の8業種を入札対象とする。

(注3) 平成27年度12月末における86点以上の検査件数は、完了検査実施前であるためゼロとなっている。

また、工事成績別の事業者数の分布率は、成績区分が優良以上の事業者が全体の40%以上となっている。平成25年4月公告分より「標準な成績」を75点から76点に変更し、また「良好な成績」を80点から81点に変更した。さらに、同年4月公告分より「優良な成績」のうちの一部を86点以上の条件で発注している。

平成25年4月の成績点の変更や発注条件の追加後においても、工事成績別区分が優良以上の事業者がおおむね40%前後となっている。

【表7】工事成績別の事業者数の推移

	成績区分		業者数	分布率
H23年度	成績点なし	実績なし	124	33.2%
	標準以下の成績	75点未満	6	1.6%
	標準な成績	75点以上	27	7.2%
	良好な成績	80点以上	54	14.5%
	優良な成績	83点以上	162	43.4%
	計		373	100.0%
H24年度	成績点なし	実績なし	123	34.1%
	標準以下の成績	75点未満	4	1.1%
	標準な成績	75点以上	27	7.5%
	良好な成績	80点以上	39	10.8%
	優良な成績	83点以上	168	46.5%
	計		361	100.0%
H25年度	成績点なし	実績なし	146	50.2%
	標準以下の成績	76点未満	10	3.4%
	標準な成績	76点以上	35	12.0%
	良好な成績	81点以上	16	5.5%
	優良な成績	83点以上	69	23.7%
	超優良な成績	86点以上	73	25.1%
計		349	119.9%	
H26年度	成績点なし	実績なし	105	36.1%
	標準以下の成績	76点未満	14	4.8%
	標準な成績	76点以上	25	8.6%
	良好な成績	81点以上	17	5.8%
	優良な成績	83点以上	58	19.9%
	超優良な成績	86点以上	78	26.8%
計		297	102.1%	
H27年度 (11月末)	成績点なし	実績なし	103	35.4%
	標準以下の成績	76点未満	12	4.1%
	標準な成績	76点以上	26	8.9%
	良好な成績	81点以上	18	6.2%
	優良な成績	83点以上	56	19.2%
	超優良な成績	86点以上	76	26.1%
計		291	100.0%	

(注1) 市内業者のみで、JV発注は含まない。

(注2) 業者数は、各年度末時点（平成27年度は、11月末日現在）。

(注3) 成績区分は、工事成績の総合平均点。

(注4) 平成25年4月公告分より、「標準な成績」が75点から76点に変更。また、「良好な成績」が80点から81点に変更。

(注5) 平成25年4月公告分より、「優良な成績」のうちの一部を86点以上の条件で発注。

2 随意契約の実施状況

公共調達における契約手法は地方自治法第234条の規定により、原則として一般競争入札とすることとされている。随意契約は地方自治法施行令第167条の2に該当する場合に限って認められる手法であり、その手続きの公正性や透明性を担保することがコンプライアンスの面からも求められている。

横須賀市では、契約手続きの透明化を図るため、平成11年度から、工事請負契約事務をすべて契約所管課（契約課）で行うこととした。これは、工事所管課で行っていた少額の随意契約を、契約所管課で一般競争入札を実施することで、随意契約による不透明な事業者選定を極力少なくしようとする取組みの一つであった。

本市においては、随意契約が全契約に占める割合は、平成25年度以降、件数、契約金額ともに約20%以下となっている。平成26年度の随意契約金額が契約金額全体に占める割合が6.56%となっているが、これは、平成26年度は大型工事である「横須賀市ごみ処理施設建設工事」契約が入札により締結されたことが大きく影響している。「横須賀市ごみ処理施設建設工事」の契約金額、211億6,800万円を全契約の契約金額から減じて再計算すると、平成26年度の随意契約の契約金額に対する発注率は、15.70%となる。

また、随意契約の平均請負率（入札における平均落札率）は91%～93%台の間で推移しており、入札における平均落札率が上昇傾向であることを考えると、随意契約と入札の請負率の差は小さくなっているといえる。

【表8】随意契約の推移

年度	随意契約			全契約			随意契約発注率	
	件数	契約金額（円）	平均請負率	件数	契約金額（円）	平均請負率	件数	契約金額
H22	99	2,210,851,020	92.96%	484	11,256,840,588	82.33%	20.45%	19.64%
H23	104	3,927,289,880	91.41%	478	13,214,342,752	85.36%	21.76%	29.72%
H24	124	2,708,501,429	93.50%	549	13,059,941,218	86.65%	22.59%	20.74%
H25	105	2,443,464,294	91.91%	531	12,550,527,461	87.73%	19.77%	19.47%
H26	97	2,385,470,584	92.60%	487	36,364,157,085	89.85%	19.92%	6.56%

(注1) 随意契約には、競争見積随意契約を含まない。

(注2) 平成26年度は大型工事である「横須賀市ごみ処理施設建設工事」契約が入札により締結された。「横須賀市ごみ処理施設建設工事」の契約金額、211億6,800万円を全契約の件数及び契約金額から減ざると、件数は486件、契約金額は15,196,157,085円となり、平成26年度の随意契約発生率は、件数が19.96%、契約金額に対する発注率は15.70%となる。

第2 平成26年度以降における制度等変更の主な取組み

横須賀市では、平成23年度に地元経済の活性化を目的とした入札改革を行った。しかし、平成24年度及び平成25年度は、入札における不調が多かったことから、不調対策を目的とした入札制度の運用を行い、平成26年4月に次のような見直しを行った。

1 固定額型最低制限価格の算定係数の見直し（平成26年4月～）

市内事業者限定で発注する工事入札で採用している固定額型最低制限価格方式の算定方法を国土交通省の低入札価格調査基準（平成25年5月16日改正）に準拠し、現場管理費と一般管理費に乗じる係数を次のとおり引き上げ、平成25年度から実施していた業種ごとの加算補正を廃止した。

	平成25年度以前	平成26年度
現場管理費に乗じる係数	0.70	0.80
一般管理費に乗じる係数	0.30	0.55

2 市内事業者の手持ち工事の上限件数の見直し（平成26年4月～）

大型工事（予定価格2億円以上）の手持ち件数の上限は、これまでの取り扱いと同様である。しかし、大型工事を除く市内事業者が入札（手持ち件数の対象と指定した随意契約を含む）により同時に受注できる工事件数は、5件（大型工事を除く）までとしていたが、この運用を当分の間実施しないこととした。

3 技術者配置の見直し（平成26年4月～）

優良な工事成績を有する事業者を対象に、現場代理人及び主任技術者の常駐要件を緩和し、重複配置条件を変更した。

（1）現場代理人の重複配置条件

	対象者	重複配置の内容
I	市内全事業者	当初の請負代金額が1,000万円未満の2契約
II	工事成績が83点以上の市内事業者	当初の請負代金額が2,500万円未満の2契約
III	工事成績が86点以上又は優良工事認定（過去5年度）を受けた市内事業者	当初の請負代金額が6,000万円未満の1契約と2,500万円未満の1契約

(2) 主任技術者の重複配置条件（専任技術者となる工事）

重複する2工事が、「建設業種が同一であること」「施工場所が横須賀市内の工事であること」「監理技術者の配置条件でないことのすべてに該当すること」を条件に、現場代理人の重複配置条件のⅢ「工事成績が86点以上又は優良工事認定を受けた市内事業者」と同様の取り扱いとした。

第3 審議の結果

1 審議案件の総評

平成26年1月から平成27年12月の期間における工事契約案件は、延べ877件であった。そのうち83件を抽出し、当委員会において審議を行った。その結果、対象工事入札及び契約案件の発注手続に関しては、概ね適正に処理されていた。

2 一般競争入札

(1) 1者入札・2者入札について

平成26年度の1者入札及び2者入札の合計は87件で、平成27年12月末までの1者入札及び2者入札の合計は57件で、平成25年度の合計121件に比べて「1者入札・2者入札」が減少した。これは、第2章でも掲げた「固定額型最低制限価格の算定係数の見直し」「市内事業者の手持ち工事の上限件数の見直し」「技術者配置の見直し」の対策実施の効果とも考えられ、一定の評価はできる。

「1者入札・2者入札」が生ずる原因は必ずしも明らかではないが、一般的に「1者入札・2者入札」が生ずる原因としては、

- ① 特殊な工法を求めたため
- ② 遠距離又は少額のため発注案件に魅力がないため
- ③ 極めて高度な品質を求めたため
- ④ 厳しい入札条件を設定したため
- ⑤ 発注時期が適切でなかったため

など諸々の理由が考えられる。

このため、「1者入札・2者入札」への対応策は原因によって異なり、上記①特殊な工法では、他の方法で出来ないのか検討する、同②の発注案件に魅力がない場合には、別の案件も合わせて発注するなどを検討する、同③の極めて高度な品質を求めた場合、同④の厳しい入札条件が原因である場合は、工事目的に照らして、過剰な品質や入札条件となっていないかを検討する、同⑤の発注時期が適切でない場合は、発注時期をコントロールする、などの対策を講ずる必要がある。

いずれにせよ、「1者入札・2者入札」が生じた場合には、落札率が高くなる可能性があり、競争性の観点からも課題となることから今後も十分に注視していく必要がある。

(2) 入札不調について

本市の入札不調件数は、平成 23 年度が 22 件、平成 24 年度が 66 件、平成 25 年度が 86 件と、平成 23 年度以降増加していたが、平成 26 年度には 52 件となり、減少した。また、入札不調の発生割合は、全体として 1 者・2 者入札と同様、平成 23 年度以降増加していたが、平成 26 年度は全体として 5 ポイント減少した。

平成 26 年 4 月から、入札不調を減少させる方策として、固定額型最低制限価格の算定係数の見直し、市内事業者の手持ち工事の上限件数の見直し及び技術者配置の見直しを実施してきた。この効果もあり「入札不調」についても改善がはかられたと評価する。しかし、入札不調は応札者を決定し事業を実施する目的が達成出来ないことにより市民生活にも影響を及ぼす可能性があることから、状況を引き続き注視していく必要がある。

(3) 固定額型最低制限価格方式について

固定額型最低制限価格制度は、予定価格に対して最低制限価格を算出する制度である。

横須賀市では、市内事業者の低額落札を防止し、市内経済の活性化を図ることを目的に平成 22 年 4 月から固定額型最低制限価格方式を導入した。平成 22 年度から平成 24 年度までの平均落札率は 85% 台で推移していたが、平成 25 年度は 87% 台、平成 26 年度は 89% 台へと上昇している。この方式は、落札率を下げ止まりさせ、価格競争の幅を狭めるものでもあることから、納税者である市民への責務として、発注者である横須賀市は、経済効果と財政負担のバランスを慎重に判断し運用していかなくてはならない。

今後は下げ止まりしたことによる高値落札についても注意を払う必要があると考える。

なお、この制度は、1 円でも最低制限価格を下回ってしまうと失格となってしまう制度であるため、国が導入している低入札制度も参考にされたい。

(4) くじ引きによる落札者の決定について

固定額型最低制限価格方式は、市内事業者の落札率の引き上げを目的としたものである。横須賀市は「固定額型最低制限価格方式を採用した時点で、ある程度のくじ引きの増加は想定されたものであり『同額入札の場合にくじ引きで落札決定を行うこと』は地方自治法の要請であるため、くじ引き以外の手法で落札者を決定することは困難である」との見解を示している。

本市では、平成 26 年度のかくじ発生率が、舗装工事が約 89%、造園工事が約 71%、水道施設工事が 60%、土木一式工事が約 50%となっている。土木系工事（土木

一式工事、舗装工事、造園工事及び水道施設工事)においては、その積算基準や積算採用単価が公表されており、最低制限価格でのくじ引きによる決定率が高くなっている。これに対し建築系工事(建築一式工事、管工事、及び塗装工事)における平成26年度のくじ発生率は0%となっている。工種が多く積算が複雑になることから、土木系工事に比べて、くじ引きによる決定率は低いことが顕著である。

しかし、事業者にとってくじ引きが多発することは経営努力では落札につながらないという負の要素もあるので、今後、改良方策を研究していくことを期待する。

(5) 工事成績条件付き入札について

工事成績条件付き入札は、「工事品質の確保」という本来の目的から見れば、当該工事の平均評価点は、優良な成績と区分している83点をおおむね超えており、その目的を十分に達成していると評価できる。

また、工事成績別の事業者数の分布率からみても、成績区分が優良以上の事業者がおおむね40%以上となっており、事業者の技術力の向上が見られていると判断でき、横須賀市の工事品質の確保のための取組みとしては高く評価し得るものである。

しかし、一方で全体の成績が向上したことで、インセンティブとしての効果が薄れてくるとも考えられるので、条件等の見直しを検討する必要もある。

3 随意契約

横須賀市では、随意契約の案件ごとに随意契約理由書により「工事概要」、「適用する地方自治法施行令の条文」、「随意契約理由」及び「事業者の選考理由」を明記することとしており、契約の透明性は確保されているものと考えられる。

しかし、個別の案件を見ると、「当初の設置業者しか施工できない」、「他の業者が施工した結果、設備が停止した場合の責任の所在が不明確になるおそれがある」などの理由となっている。今後も、真に一般競争入札に付すことができないかといったことも十分に精査して取り組むことが大切である。

また、随意契約によって発注する場合においては、当該工事案件が、当該事業者固有の技術を要するものなのか、知的財産権が付随するものなのか等について他の事業者からも事情を聴取する等の確認作業を行うとともに、予定価格の設定においては、透明性、公正性を担保する手法を用いる等、市場価格から逸脱しないよう細心の注意を払う必要があると考える。

4 その他

(1) 災害緊急協力事業者に対する優遇措置について

横須賀市では、従来から登録制の災害緊急協力事業者に対する優遇入札を実施してきた。このうち土木一式工事については、平成 25 年度から災害貢献度により与えられる加点に応じて、加点の多い（＝災害貢献度の高い）事業者ほど優遇入札への参加機会が増えるインセンティブを設けている。この仕組みが機能し、現在は工事品質の確保と同様のインセンティブとなっている。

また、平成 23 年 3 月の東日本大震災以降、全国的に自治体の防災意識が高まるなか、優遇入札を通して地域事業者に平常時からの地域情報の集積や技術力の維持を期待し、市として「災害対応力の強化」に役立てようという趣旨は理解できる。

他方で、一般競争入札として優遇措置を行う以上、特定の事業者、あるいは特定の団体への優遇にならないこと、また談合等不正行為を誘発する原因とならないことなどに発注者は十分な配慮を払う責務がある。

したがって、当該入札案件については前回と同様に、定期的の実施結果を当委員会へ報告すべき事案と考える。

(2) 不正のない入札及び契約事務の実施について

近年、近隣都市において官製談合防止法（入札談合等関与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律）に抵触する事件が発生している。

幸い横須賀市において入札に不祥事は発生していないが、平成 26 年度に実施したコンプライアンス研修などを繰り返し行うことは非常に重要であり、常に職員の意識の啓発を行い、引き続き、不正のない入札及び契約事務に努められたい。

結びに

当委員会では、平成 26 年度及び 27 年度に横須賀市で行われた多くの入札事務について、2 年間にわたり審議してきた。

入札事務にあたっては、公正性・透明性・公平性・競争性の確保とともに、地元経済の活性化といった命題に取り組んでいるところであり、これらをバランスよく両立させることが肝要である。

そして、納税者である市民の負託を受けて公共事業を発注していることを常に意識して、今後とも引き続き、適正な入札事務に取り組むことを期待している。

横須賀市入札監視委員会

委員長	鈴木	孝之
副委員長	赤塚	泰弘
委員	澤田	修一
委員	鈴木	恵

第7期入札監視委員会の委員 【任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日】

役職	氏名	職名等
委員長	鈴木 孝之	白鷗大学法科大学院教授
副委員長	赤塚 泰弘	弁護士、横須賀うみかぜ法律事務所
委員	澤田 修一	公認会計士、有限責任監査法人トーマツ
委員	鈴木 恵	関東学院大学法学部准教授

第7期入札監視委員会の開催状況

開催日	議事内容等	審議案件数 (監視対象数)
第43回 平成26年8月20日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成26年1月1日～6月30日契約) 平成25年度の入札結果について 	11件 (156件)
第44回 平成26年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成26年7月1日～9月30日契約) 最低請願価格の算定方法について 「くじ」による落札候補者の決定方法について 	15件 (157件)
第45回 平成27年3月3日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成26年10月1日～12月31日契約) 最低制限価格の比較について 入札不調の現状について 	15件 (176件)
第46回 平成27年8月4日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成27年1月1日～5月31日契約) 平成26年度の入札結果について 入札不調の発生状況について 入札不調に基づく随意契約の取扱いについて 	13件 (90件)
第47回 平成27年11月9日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成27年6月1日～9月30日契約) 平成27年度上半期の入札不調の発生状況について 災害協力加算点について 意見書の骨子(案)について 	15件 (177件)
第48回 平成28年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した工事案件に関する審議 (平成27年10月1日～12月31日契約) 中核市の状況について 意見書について 	14件 (141件)

*監視案件の抽出方法(第43回委員会で決定)

- | | | |
|------------------------|-------------|---------------|
| ① 請負金額が1億円以上の場合 | (入札) 1/2抽出 | (随意契約) 1/2抽出 |
| ② 請負金額が5千万円以上1億円未満の場合 | (入札) 1/4抽出 | (随意契約) 1/4抽出 |
| ③ 請負金額が1千万円以上5千万円未満の場合 | (入札) 1/10抽出 | (随意契約) 1/10抽出 |
| ④ 請負金額が1千万円未満 | (入札) 上位2件抽出 | (随意契約) 上位1件抽出 |
- ◆入札案件①及び随意契約案件①及び④は、落札金額の高い順に並べて一番高いものから無作為抽出。
◆入札案件②～④は、いずれも落札率の高い順に並べて一番高いものから無作為抽出。
◆随意契約案件②及び③は、契約日順に並べて最初のものから無作為抽出。

【 参 考 】

- 表 1 落札率の推移
- 表 2 1 者入札・2 者入札の工事入札状況
- 表 3 不調割合の推移
- 表 4 固定額型最低制限価格方式（市内事業者限定）の入札状況
- 表 5 固定額型最低制限価格方式の一般競争入札のくじの件数等の推移
- 表 6 工事成績条件付き入札の実施状況の推移
- 表 7 工事成績別の事業者数の推移
- 表 8 随意契約の推移
-
- 図 1 業種別平均落札率の推移
- 図 2 平成 26 年度 業種別落札率の中核市比較
- 図 3 工事入札の年度別平均参加者数と登録業者数の推移
- 図 4 不調発生率の推移
- 図 5 平成 26 年度 不調割合の中核市比較
- 図 6 平成 26 年度 業種別くじ発生率の中核市比較